

# 義経の生涯とその伝承

寿永三年(1183)、平家一門は都を落ち、安徳天皇を奉じて西国へと逃れました。寿永四年(1184)2月、一の谷の合戦において、源義経に奇襲をかけられた平氏軍は大打撃を受け、元暦二年(1185)3月、壇ノ浦において平氏軍は義経に敗れ、多くの平家一門は海に沈みました。

源氏の勝利の功労者である源義経は、兄である頼朝との不和により、鎌倉入りを許されず、文治三年(1187)に奥州藤原氏のもとに逃れるも、文治五年(1189)、頼朝に屈した藤原泰衡の襲撃によりその生涯を終えます。

義経は、その英雄的な功績と悲劇的な境遇から、様々な伝説や物語が生まれました。室町時代に成立した『義経記』をはじめとして、戦国期の芸能である幸若舞や能、江戸時代の歌舞伎など、現在に至るまでも多くの人々に親しまれています。

富樫氏の館を舞台として展開する「勧進帳」の物語も、『義経記』以降に記されるものですが、歌舞伎において人気を博し、富樫氏の名を多くの人々に伝えました。